

tokyo

あなた
君の輝く瞳に逢いたい…

Asuka

【あしび】

福山葦陽
東京同窓会
広報誌
2017
11



原風景 瀬戸内

〈報告〉第30回 福山葦陽東京同窓会
〈クラスメイトレター〉皆さん、お元気ですか？
〈恩師より〉小林達治先生「国語」、大久保宏登先生「数学」
〈葦陽高校より〉チーム葦陽へ前へ！
〈本部総会報告〉同窓生を応援しよう！
〈エッセイ〉カーブに恋して半世紀
〈訪問〉誠之舎を訪ねて
〈ふくやまひろしま〉とつきよう情報〈他

初夏の訪れを告げる鞆の浦の弁天島から打ち上げる花火大会。まさに荘厳で幻想的な風景です。



マンドリン演奏に飛び入り参加



第30回 福山葦陽東京同窓会

Report
報告

30th
T.DOSOKAI
2016.10.23(sun.)
in Kanda Gakushikaikan



福山葦陽東京同窓会会長

東山 征士

福山葦陽東京同窓会会員の皆様には益々お元気で、充実した生活をお過ごしのことと拝察しています。

平素は、同窓会の活動に格別のご支援を賜り、ありがたく厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年は母校創立110周年、東京同窓会30回開催、「あしび」10号発行、郷里福山では市制施行100周年とお目出度いことが重なりました。

第30回福山葦陽東京同窓会は、昨年の10月23日(日)、学士会館で開催され、本部赤松会長、藤井校長、宇田大阪支部長、福山市東京事務所福田所長のご出席を賜り83名の参加で開催いたしました。

節目に相応しく会員の田丸さん、富澤さんによるマンドリンの演奏に、昨年惜しくも日本一を逃しましたが、見事シリーズ優勝の榮譽に輝いた我らが「広島カープ」の応援歌も披露し、熱狂的カープファンの飛び入りもあり、今年の日本一を誓い合い、会場は大盛り上がりを見せました。

大阪支部からも3名が出席されて、新たに支部間の交流も始まりました。

今年から葦陽同窓会のホームページも新しくなり、本部、支部の情報や住所の変更など分かりやすく身近で親しみのあるものになりました。同窓会へのお問い合わせ等は、是非そちらをご覧くださいと思います。

今年の第31回東京同窓会は10月22日(日)、恒例になりました学士会館にて開催いたします。同期のお仲間を誘い合い、一人でも多くのご参加をお願いします。

出席者(敬称略)

●数字は卒業年 ※は近畿支部

- 赤松 治美
- 池田 朗子
- 西 直枝
- 葦陽校長
- 石井 義信
- 村上 芳則
- 小林 泰崇
- 吉井 和子
- 正田 邦男
- 福山市事務所
- 山下 恵子
- 廣江 邦男
- 福田 等
- 渡辺美恵子
- 黒田真理子
- 児玉壽實子
- 小川 敏彦
- 富沢 真澄
- S 20・B
- 藤井 栄治
- S 43
- S 23
- 佐藤 凡雄
- 木下 照江
- S 24
- 連石 勉
- S 44
- S 25
- 伊地 範子
- S 35
- S 26
- 向井 総昭
- S 48
- S 27
- 岩瀬 浩造
- S 37
- S 28
- 垣原 洋昭
- S 38
- S 31
- 伊藤 賢二※
- 三吉 伸子
- S 59
- S 32
- 宇田 成徳※
- S 40
- S 39
- S 30
- 前原 二郎※
- 児玉 弘子
- 植村 崇由
- 前原 佳子
- 田丸 佐知子
- H 14





東京同窓会役員



赤松同窓会会長



村上副会長の乾杯



乙来賓、19、20、23年卒



近畿支部宇田会長、前原さん



福田東京事務所所長



小林校長



32、34年卒



27、28、31、35年卒



24、25、26年卒



36、38年卒



33、37年卒



39、40、42年卒



41、43、44年卒



45、60、H14年卒



48、50、59年卒



県女校歌斉唱



葦陽校歌斉唱

昭和25年卒

誠之館OBより



昨年、平成28年の総会にて。右から2番目が私

藤井拓三
(昭和25年誠之館卒・狛江市)

私の年代は、新制高校制度開始直後の昭和24年の学区制により、男女を問わず居住地で定まる高校への通学を強制されました。名門校の名は消され、東・南等の名になりました。葦陽の男性では最高年です。私は誠之館に残り、多くの友と離れましたが、高3の1年間に県女からの天使と同席する、想像も出来なかった恩恵に浴しました。それまでは、憧れの天使がいると福山城壁から県女校舎を見下ろすだけで、声を交わす事も無かった私共の喜びが如何ばかりか。生きる喜びを教えてくださいましたあの1年間の楽しい経験なしに今の人生は無かったと感謝しています。私の上3歳間隔の姉5名皆が県女でお世話になり「僕も大きくなったら県女に行く」と言い「紅匂う」と歌っていた私には県女への強い愛着もありました。

私共、血を分けた葦陽・誠之館の同期生は、昭和60年に合同で東京同期会を結成し毎年楽しく交友を深めています。初代会長を務めた私は直ぐに海外勤務で惜しくも交代しました。

誠之館で同席の天使の一人、川原(旧姓中野)絹子さんが6年前に貴東京同総会で歌唱発表した時、私は伴奏準備のため同席、以来幸いにも毎年参加させて頂き、本挨拶の機会を頂きました。昨年は、会場に入るや葦陽同窓会作品展の写真、真っ先に姉(秀子・昭和22年卒)の水墨画が目に入り福山に電話しました。

私は情報通信の国際標準化に長年携わってきましたが、日本は最高の技術貢献をしながら20数年前から海外市場を総て失っています。島国感覚から抜けきっていません。この点で、両校の前・現校長共に「国際化した世界で他の国々と共に我が国を発展させて行ける人材の育成」を目指しておられ、さすが、鎖国を解き日本の近代化に最高の貢献をなした阿部正弘公の指導に基礎を置く、備後の両名門校と感銘しました。両校同窓生の交流を深め、皆で協力し応援しましょう。

昭和26年卒

高齢卒業生の 遠い思い出と今の日々

～野生植物の趣味はよかった!～



カザフスタン、レッドヒル



青梅梅林散策

山岡照子(旧姓佐藤)

(昭和26年卒・日野市)

私が葦陽高校(当時、南高校)を卒業したのは昭和26年、まさに戦中・戦後を知り、体験した世代である。物不足・空襲に悩まされた戦中から、既に女権論者であった私は「女性は大へも行けない。将来はどうなるのだろうか?」などと時折考え込んでいた。女学校一年の時終戦、学制改革でやがて戦前の日本では考えられなかった男女共学の高等学校生へ。その時代の多くの人々の考え方は違っていたかもしれないが、一人前に社会活動をするためには法律が経済の知識が必要なのではと考えた。そんなわけで結局私は経営労務を専攻し、70歳まで働き続けることとなった。

ところでいつの頃からか私は趣味の分野で野生植物に関心を持ち、時間があれば家族や趣味のグループなどで花を求めて野山を歩き廻っていた。これは退職後にもとてもよかったです。満足している。定年になってしまえば、自分を投入できるものなど、なかなか見当たらない。しかし植物への関心のおかげで、定年後は毎年一回くらいは植物観察のツアーなどに参加して海外にも出かけることとなった。カザフスタンの「レッド・ヒル」と呼ばれる丘を赤く覆い、また残雪の山で群れて咲く自生のチューリップ、そここの草原がお花畑となっているギリシャのクレタ島など忘れ難い。80歳を過ぎ最近歩きにくくなってきたが、過去の写真を見たり、それをもとにポタニカル・アート(植物の明細画)を描いたり楽しみが続く今日である。しかしこれも平和だからこそできる日々、今の平和がいつまでも続くことを願わずにはいられない。

昭和33年卒

健脚が私の自慢



韓国の友人と神代植物公園で。右が私



フォークダンスの仲間たち。前列左端が私

油井寛子(旧姓大元)

(昭和33年卒・中野区)

葦陽高等学校を卒業してから59年になります。この59年を振り返ると、やはり長い歳月が過ぎたことを感じます。

今年3月に元気で喜寿を迎えることができ、幸せに思います。最近、友人たちに「油井さんは元氣ね、健脚ね」と言われます。歩くことは平気です。40代になって子育てが楽になった頃、友人にフォークダンスの会に誘われ、毎週一回レッスンで踊るようになりました。最初はフォークダンス独特のステップやターンの足運びが難しく、大変でしたが、今は楽しく踊っています。今年も継続36年目に入り、信じられない思いがします。春は障害を持つ方々とのふれあい運動会で、秋には地域まつりで、他のグループと一緒に踊りを披露しています。私達のコスチュームは、東欧の民族衣装でとてもステキなんです。

フォークダンスの会の仲間とは、旅行をしたり、食事会をしたり、楽しくしゃべりすることもしばしばです。

その他にも、毎朝近くの公園で行われているラジオ体操に参加して15年になります。ラジオ体操も健脚の秘訣です。ラジオ体操で町内に親しい人が増え、日常生活が豊かになりました。住めば都と言いますが、中野区南台は夫の生まれた土地で、有名な神田川が近くを流れていて、住みよい所です。娘の家族がスーパが冷めない距離に住んでいます。

喜寿を迎えて、フォークダンスの覚えが遅くなりましたが、健脚を保つために元気で踊り続けたいと思っています。

昭和
44年卒



今年の公演「すもももももモモのうち」前列↑が私

今年で20年

磯志(旧姓三谷) 昭和44年卒・志木市



「楽塾」座・高円寺2でのチラシ



「演劇で遊びませんか？45歳以上の人」20年前のチラシの呼びかけに、アングラの帝王と名高い流山児祥の元で芝居のワークショップに参加しました。高校、大学と演劇部に籍は置いていましたが、結婚、子育ての間は一切芝居とは無縁の生活をしていましたので、言葉遊びや、エチュード等1、2週に1度の仲間との語りや稽古は本当に楽しい時間でした。テキストを決め、台詞を読み合わせ、「折角だからアトリ公演をやらないか？」と演出家の勧めに女4人と男1人は公演に向けて様々な準備を文化祭のノリで、チラシの写真撮影、印刷、衣装決め、チケットの販売、管理等をこなし、スタッフは事務所の若手劇団員が手弁当で、手伝ってくれることに。趣味で始めたのに、「役者はプロ扱いにするぞ。金を取るんだからな」と演出家。怒られたり、おだてられたり。全員仕事を持っていたので、稽古は土日と本番前一週間の仕事終わりの夜。稽古場に行くと、前日までは何もなかった所に舞台と息使いまでも伝わる50席程の客席が出現。何もかも初めてづくしの緊張の連続だった。第1回の公演から20年、団員も20名弱に増え、お客様も1200名程が毎年足を運んで下さいます。その間会場も、芝居のメッカである下北沢の本多劇場やスズナリ、座・高円寺に進出、地方公演で滋賀や仙台、カナダや台湾のフェスティバルにも参加、当然平均年齢も60歳を超えて、台詞は覚えにくくなり、ダンスは身体が動かず、トホホ状態なのですが、見に来て下さったお客様からは「元氣もたったわ！」と言われます。そう！20年前から「楽塾」のモットーは「人は元氣で楽しいものを見ると、元氣で楽しくなる」なのです。元氣差し上げます。

昭和
48年卒



京都伏見稲荷大社にて

驚異の60代邁進中

森山幸代(旧姓安道) 昭和48年卒・横浜市



横浜みなとみらい地区へ吟行

還暦を記念して行われた同窓会から3年が経ちました。途絶えかけていた縁、薄れかけていた絆を手練り寄せて大勢の懐かしい顔、顔、顔に福山の地で再会することができました。初めは遠慮がちだった空気もあつという間にうち解けて、正に同期のなせるところでしょう、時空を超えた感がありました。高校時代に、自らの60代を想像することは無かった、それが今現実起こっているのって、ちょっと驚異です。驚異の60代を突き進んでいます。

元氣に過ごしてはいるのですが健康診断で、僅かな数値の尖がりを指摘されるようになりました。耐用年数の問題でしょうか。

かと思えば妙に早起きになり、4時半には起床して温かいお茶を飲みつつ新聞の小説、テレビ欄、生活面をして一面へと読み進めます。隅々までとはいきませんが、投稿欄は面白いです、色々な考え方があるものだ。この早朝の時間は有意義で、50代から始めた「短歌」の推敲などもこの時間に行っています。

65歳、70歳と自分がどのような感慨を持って生活しているのか想像が付きません。再び皆様方とお会いできることがあるのでしようか、どうぞお健やかに。

水上に浮くごとき高層建築群つゆ六月の曇天のもと

昭和
59年卒

みんな、愛し合ってるかあい?!



愛馬が優勝した時の口取り。東京競馬場



子育て診断士アワード MVP受賞のものです

渡辺義門 昭和59年卒・海老名市

葦陽同窓生のみんな、愛し合ってるかあい?!カラオケで清志郎をよく歌う、「わーち」こと渡辺義門です。私は、高校時代より20kg成長し(特に腹周り)、夏の日差しを地肌を感じるように髪型は変わり「目田堀吾夫」のハンドルネームを持つ52歳のオヤジになりました。結婚して20年、一女一男の家族4人で神奈川県海老名市に住んでいます。結婚前は扶養家族もなかったでライフワークの競馬に夢中で、競走馬を数頭一口馬主として扶養していました。現在は馬まで養う余裕はなく、外資系生命保険会社でライフプランコンサルタントという名のもと東京都内、神奈川県を中心に活動しています。

最近「子育て診断士」の資格を取ってママ、パパの子育て相談で個性を伸ばす子育てのアドバイスをさせて頂いていたり、夫婦のコミュニケーションの相談を受けたりして、夫婦仲を良くして出生率をアップさせ、元氣な日本の未来に貢献しています(笑)。笑顔と感謝をモットーに楽しくやっています。十人十色と言われるよう、人はそれぞれ感じ方、意思決定、行動の仕方が違います。特に子供の場合大人(親)がそれを理解しないと個性が生かされて育ちません。そんな大人も自分自身の事を知ることが大切。勉強や活動を通じて、しあわせに過ごすにはパートナーや家族など身近な人と良い人間関係を築くことが大切なのだということなんだかアタリマエのこと気づかされる今日このごろです。

「葦陽高校(全面移転)百年の大計が 福山文化ゾーン百年の大計を生む」

—久松台への全面移転、校舎の跡地活用への **秘話** —



パソコンで執筆中の小林達治先生

立石市長は大賛成。美術館を造りたい。それを中心に文化的な公園を作りたいという構想を持って、移転用地の確保を斡旋する旨の回答を得た。当時の校長(久留須康晴)に報告し、積極的な全面移転の活動が展開されるようになった。PTA会長・

福 山城公園の西側、福山美術館に通ずる広い道の両サイド、東のモニュメント公園には小さいけれども誇らしげな「都市景観大賞」の小石碑が立っている。西の県立歴史博物館の南側道路に面した植え込みの西側、そこにもひっそりと佇む石造物がある。その石台に「陽の誌(ひのしるし)」として刻まれた「広島県立葦陽高等学校跡地」と記された碑文があります。この施設を含む一帯は福山文化ゾーンとも呼ばれますが、これの殆んどが「母校葦陽」だったのです。見出しの題でその経緯を皆さんに知って頂いて、母校への思いの一助にしたいだければと思つて筆を執つた次第です。

山陽新幹線岡山～博多間の工事が始まったのは、田中角栄内閣の「列島改造政策」下の昭和47年でした。在来線は高架化され、踏切で長く待たされる苦痛から解放された代わりに、授業中の騒音が妨害となりました。そして50年3月には、目の前を騒音を発した山陽新幹線が開通しました。新館の追加工事を陳情しましたが、県教委は騒音対策などを検討しなければならぬから、年数が掛かるという姿勢です。誠之館のように広い敷地を求めて全面移転すべきではないか、私は丁度当時の福山市の立石市長と同期生だったので葦陽の移転、校地の確保等について相談に行つたのでした。ここから秘話を始めます。



第35回卒業 昭和59年(1984年) 創立100周年記念誌より

E T A会長(雇用主と学校(定時制)の会)、同窓会、学校)による陳情活動である。昭和48年11月末であった。ところで、移転先の確保であるが、立石市長直接の斡旋で昭和47年3月設立認可の予定の城北土地整理組合(久松台)の事業計画に高等学校移転の用地1万5千坪を組み込むところまで踏み込んで貰った。昭和50年には学校用地の全容が見えるところまで進んでいた。私はこの年の4月から昼間2部定時制の教頭に転属、移転への事務局を担当できるようになつていった。

そんな中で、水面下での地元県議等への校長の理解工作を経て、昭和50年9月には「広島県立福山葦陽高等学校全面移転期成同盟会」が設立された。これは、会長E T A会長小林政夫商工会議所会頭、副会長PTA会長・E T A会長・同窓会長・学校(事務局担当)で構成し、顧問に福山地区選出の全県会議員と福山市議会議長を推戴するという強力な組織であった。そして早速、請願書を作成し県当局に提出した。

請願書の提出後は、県教委施設課を中心に県当局の視察等の前向きな対応、立石市長と小林会頭の校舎跡地利用への度々の対県折衝が実を結び始め、目途がついた時期に私は転動した。昭和53年3月である。県立歴史博物館の資料によると、①昭和51年7月、市教育委員会が福山に県立博物館の早期建設を要望、②昭和52年(1977年)3月広島県長期総合計画で「草戸千軒遺跡資料館」を計画とある。

振り返ってみると、孫子の兵法に言う『天の時』・『地の利』・『人の輪』が一体となった全面移転への取組みでした。久松台の校舎の完成は昭和58年4月です。

ご依頼を頂いたので葦陽全面移転の秘話としてこの事実を書かせて頂きました。わたしも高齢、当年とって今、満89歳です。皆様に感謝申し上げます、ご発展を祈り上げます。

おおくぼ

ひろと

大久保 宏登 現教頭

父の望んだ葦陽高校を 思い描きながら



大久保晴登 先生

昭 和62年3月、父大久保晴登は福山葦陽高等学校を退職しました。そして30年を経て、平成27年に私は葦陽高校に勤めることになりました。不思議な縁を感じながら、暇を見つけては父の足跡を探して校内を歩き、所縁のある方々からお話を伺いました。久松台校舎は校長として勤めた3年間であり校長会長としての業績や苦勞は残ってはいるものの、葦陽高校との関わり、そのほとんどは旧校舎にあるということがわかりました。

父は、昭和23年に広島県立福山高等女学校に教諭として採用されました。わずか1年で福山東高校(現誠之館高校)に転動していますが、その1年間で私の母を教えていたようです。父からも母からも当時のことはほとんど語られませんでしたが、県女と葦陽の存在は私の中では大切なもの思っていました。父は、誠之館に10年間勤めたあと葦陽高校に戻り、その後17年間に教諭及び教頭として勤務をしました。教諭として仕事をしていた当時の写真を見ると、先生を慕う生徒たちに囲まれ頼られることを意気に感じて仕事をしていたようです。私の実家は瀬戸町にあり街中からは随分離れた田舎でしたが、葦陽高校のお兄ちゃんたちが家に来て勉強をしてくれたことをよく覚えています。そして、私が小学校のころ、夏休みだったでしょうか、葦陽高校のプールで泳いだ記憶があります。プールの底に全く足が届かず大量の水を飲みながらもがいている横で悠々とバタフライをしている父を見て、この人だけでは一緒に遊ぶまいと誓ったものでした。父は水泳部やソフトテニス部の顧問をしていたと思います。私も何度かお邪魔したことがあり、部員のお姉ちゃんに手を引かれ、かわいがっていたことも記憶にあります。子ども心に、葦陽生はすごく大人の印象で、このような生徒たちを教えている父は偉い人だと思って見ました。教諭時代の父は、名門葦陽を築くため誠之館に追いつけ追い越せを合言葉に大学進学指導に力を注いでいたようです。そして周りの先生方と葦陽の将来を語り合い目標や価値観を共有し合うことで、教員仲間の結束を図っていたのではないかと思います。とにかく、先生たちとよく電話で話をしていました。そして休みの日には何人もの先生が我が家に来られて庭づくりを手伝っておられました。数学の阿川先生や和田先生のお名前をよく聞きました。新しいジャケットを着て来られているのに父はお構いなしに「この石をはこんでくれ」と頼んでいました。我が家でもワンマンでしたが、外でも同じかと呆れるばかり。母がいつも来られている先生方に「申し訳ありません」と頭をさげていました。

管理職になってからの父は、他団体の教育への関与と対峙する中で苦悩する場面もありましたが、多くの教師仲間のお励ましを得て、信念を貫くことができたと思います。特に、小林達治先生とは長年の同僚として、県東部の教育の正常化のために闘う戦友としての強い絆があったと聞いています。父の望んだ学校は「教師が常に研鑽を積み生徒が師を仰いでいく」というものだったと想像しています。かつての葦陽がそうであったように。

私は葦陽高校に勤める前に5年間、広島皆実高校に勤務をしていました。皆実高校の前身は県女、男子の国泰寺中と肩を並べる存在でした。私は皆実に行き伝統校の価値と使命を痛感しました。だから、やはり歴史を同じくする葦陽と誠之館は肩を並べる学校であってほしいと願っています。「古豪復活」を葦陽高校の合言葉にして。予測不可能な未来をたくましく切り拓いていく力の育成に向けて教育界は大きく動き始めています。その中で葦陽高校は、勉強と部活動の2つの目標を持って困難をのり越える力を付けること(文武両道)を目指して取組みを継続しています。現在は制服の着なしを厳しく迫っており、女子生徒の制服の袖ホックはみんなきちんと止まった状態です。葦陽に通っていることを誇りに思い「葦陽生だからきつとできる」という効力感を持たせたいからです。最近のPTA新聞には次のような記事を載せました。

最近、生徒たちの所作が大人っぽく感じられます。一つは制服の着なしが良くなったからだと思えます。制服はソーシャルウェア(学生という社会的立場を表す服)であり、名門葦陽の伝統を受け継いでいるものです。この制服を大切に着ることによって不思議と大人の所作が身についてくるように思います。

大人の所作が身につけている人は周りの人から頼られる存在になります。頼られると大人の振る舞いで応えようと思えます。そしてさらに人が集まってくる。大人の生徒たちが増えつつある葦陽高校は、古豪復活に向けて着実に歩んでいます。

縁ある葦陽高校で仕事ができる喜びを感じ、父の望んだ葦陽高校を思い描きながら…



大久保晴登先生と宮 和子先生、桑田悌二先生



私もセンター試験数学の早朝補習で3年生を鍛えています



2/ 姉妹校との交流

ワイパフ高校とは、平成25年10月2日に姉妹校締結をし、翌年から継続して相互交流を実施しています。本年度も6月にワイパフ高校（アメリカ合衆国ハワイ州）から6人の生徒と2人の先生を迎え、全校挙げての国際交流を行いました。6人の生徒は、6月3日（土）～18日（日）の2週間、本校生徒宅にホームステイをしながら、授業参加・部活動体験・近隣小学校への訪問など幅広い交流を行いました。

本年度は、生徒間の交流を一層促進させるために、ワイパフ高校の生徒がペアで1、2年生の全クラスを訪問し、そこで共に一日過ごす交流形態を取りました。この交流を通して、両校の生徒間でつながりをより深めることができました。



また、初めての取組として、ワイパフ高校の生徒が講師となり、全生徒を対象に国際理解教育講演会を実施してもらいました。ハワイの自然・文化・学校紹介等の内容でプレゼンテーションを行ってもらいました。ただ聞くだけではなく、クイズ形式を取り入れることで、講演内容の理解と他国の文化や習慣に対する関心・意欲・態度の向上に役立てることができました。講演とあわせて、フラダンスとチアリーディングも実演してもらいました。

来年2月には、本校から5名の生徒を選考し、ワイパフ高校に派遣する予定です。本校の生徒もワイパフ高校の生徒宅にホームステイをしながら、約2週間に渡って英語オンリーでの授業を受講します。その他にも、地元の小学校を訪問しての小学生との交流、パール・ハーバーを訪問しての歴史学習など多彩なプログラムを通して、異文化理解と英語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。



5/ 部活動状況

《平成28年度の戦績》

◆ サッカー部

平成28年度広島県高等学校サッカー新人大会 3位

◆ テニス部

第68回広島県高等学校総合体育大会（テニス競技）

女子団体 3位

第55回中国高等学校テニス選手権大会

女子団体 ベスト16

◆ 卓球部

第62回中国高等学校卓球選手権大会

女子個人戦 1名出場

◆ 水泳部

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会

（競泳）4名出場・（飛込）2名出場





1/ 研修修学旅行 平成28年10月4日(火)～7日(金)

東京への研修修学旅行では、総合的な学習の時間「リードプラン」の活動の一環として、グループに分かれての企業訪問を行っています。事前の探究活動とあわせて、実際の企業活動を見学・体験することで、職業意識の涵養と高い進路目標の育成へとつなげています。

研修修学旅行での東京同窓会の方々との交流も4回目となりました。本校の先輩として東京で活躍されてきた方々の体験談を聞きながらの食事を楽しみにしています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

福山葦陽高校の
今年のテーマ

One step forward

「チーム葦陽～前へ～」

…学びの変革の実践、グローバル化への加速、文武の両立の確立…

こばやし やすたか
校長 小林 泰崇

現状維持は後退と考え、自分の進路実現に向けて「一步前へ」踏み出すことを生徒に訴えています。「地域から愛され信頼される学校づくり」、「福山葦陽高校で学んでよかったと心から思える学校」の実現のため、「チーム葦陽」スクラムを組んで、全力で努力してまいります。

本年度から、目指す生徒像として「変化の激しい社会をたくましく生きるための社会人基礎力を身に付けた生徒」を掲げ、そのために様々な取組を進めています。本校に対して、皆様の一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

3/ 体育祭

例年9月末に、各学年を縦割りにした赤青黄緑の4チームを編成し、全校挙げた体育祭を開催しています。各種目でお互いに競い合い、青春の汗を流します。また、チームごとに応援団を結成し、エールの交換によって体育祭を盛り上げています。年々、応援に駆け付けてくれる保護者の数も増え、賑やかな体育祭となっています。



4/ 1学年ふれあい 学習合宿

例年4月入学当初に、沼隈にあるツネイシしまなみビレッジで実施しています。葦陽高校の生徒としての自覚を高め、集団生活における規律を身につけるとともに、高校生活の基盤となる学習方法や考え方を身に付けます。また、この合宿を通して同級生との親交を深めています。



平成29年度同窓会 総会を終えて



実行委員長
昭和55年卒
横藤田 晋

去る6月18日、29年度総会を東京より来山支部長のご臨席も賜り、無事終えることができました。今、こうして報告文を書かせて頂きながら、実行委員長を拝命してこの一年、多くの事を思い出されます。広告募集活動では、多くの方と出合い、お話をさせて頂きました。初対面の方、全く本校とは無縁の方もおられました。その大多数の方が、本同窓会の大変なる良き理解者であり協力者でした。これも毎年、本同窓会を継続して開催され続ける先輩諸兄のご尽力の賜物であり、そして、卒業後に社会人として、各方面でご活躍されているご功績の証であると改めて感じました。本校は111年という長い歴史を有します。当番学年はこの重き遺産を引き継ぎ、次年度に受け渡すという大役があります。今年も無事開催し終えた事は、当番学年として、このお役目の一助を果たせたものと、嬉しくまた光栄に思うところです。

今年の開催内容について触れさせて頂きますと、元TBSアナウンサーの吉川美代子氏をお招きし「愛される生き方、話し方で幸せになれる」と題して心温まるご講演を頂きました。懇親会では「同窓生を応援しよう」をテーマに、平成8年卒 能楽師大島文恵さんの能囃子で始まり、在校生の姉妹デュオ「なつほの」の歌謡ステージ、テレビ映画と大活躍の杉原杏璃さんに同窓生として参加頂き、トークショーも行い、華やいだ雰囲気となりました。こうした同窓生の活躍を間近にご覧頂き、大変に盛り上がった懇親会でした。

最後となりましたが、本同窓会開催に際し、お力添え頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。また福山葦陽同窓会東京支部の皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げます。

を応援しよう!

記念講演 吉川美代子さん



大島文恵さん

来山征士東京支部長

乾杯は恩師川崎雅俊先生

恒例のブラスバンド演奏

総会風景

※出席したのに写真がない方々、一緒に写ったはずなのにカットされている方々、誌面の関係でスマミセン… 来年は皆さん掲載致しますので、是非ご出席下さい。

来年の総会に向けて



次回実行委員長
昭和56年卒
井上 亮

去

る6月18(日)、福山ニューキャッスルホテルにおいて葦陽高校同窓会総会・懇親会が盛大に行われました。当番学年のみさんの一生懸命な言動が、我々の来年度への想いを更に高めて行くには十分でした。議長への威厳のある総会、優しい笑顔の吉川美代子さんの講演、そして葦陽高校吹奏楽部による演奏は我々の年代を思っただけでなく、大島喜多流による荘厳な能。葦陽高校在校生「なつほの」によるパワフルなダンスと歌。最後は、芸能界で活躍する卒業生「杉原杏璃」さんとのトークショー。盛りだくさんの内容にあつという間の懇親会でした。

校歌をみんなで何十年ぶりに斉唱した時には、自分に帰るところがある事の喜びを実感できました。最後は、横藤田実行委員長のご好意により、舞台上で当番学年の引き継ぎ式を行って頂きました。

実行委員長のタスキを無事引き継ぎ、皆さんにご挨拶。当日出席して頂いた同窓生に来年も来て頂けるようお願いをし、我々がお世話になった恩師に大勢来て頂くよう皆さんにお約束をして降壇しました。

来年の日程を言い忘れ、再度マイクを取りに行くという失態もありましたが、無事大役を果たすことが出来ました。来年の同窓会の日程は、6月10日(日)。多くの方と再会できることを楽しみにしています。来年も今年度同様にご指導、ご鞭撻、ご協力を宜しくお願い致します。



平成29年度
同窓会総会冊子

ひゃっかりようらん

【百花繚乱】同窓生

杉原杏璃さん



「なつほの」柿原奈津美さん、穂乃佳さん



当番幹事(昭和55年卒、60年卒、平成6年卒、16年卒、23年卒)

来年の当番幹事の意気込み

カープに恋して半世紀

昭和
27
卒

大士井 晃

平成28年は福山葦陽高校創立110周年、福山市市制100周年、更に広島カープが25年ぶりのリーグ優勝で300億円の経済効果で花を添えた記念の年となった。

9月10日の監督以下の胴上げシーンは福山市制100周年レブリカユニホームで観戦した。カープの公式戦を観戦したのは、セリーグ加盟8球団結成の昭和25年3月、球場は「福山三菱グラウンド」である。球団は親会社を持たない唯一の市民球団で、昭和32年広島市民球場の完成まで、広島総合グラウンドを使用、従って他球団の球場又は全国各地の球場を転戦していた。

福山市民球場は昭和26年第6回国体球場として未完成のためそれまでは旧三菱グラウンドや尾道北高グラウンドを使用。当時のグラウンドはフェンスや観客席の設備もなく、内野外野はロープで仕切って観客を入場させたが試合中にロープが移動し、当時77mの外野までの距離が短くなったとのこと。当時の硬式ボールは飛ばなかったのでカープ選手は開幕5試合目で白石勝巳選手(二代監督)が福山で初めてホームランを記録した。

リーグ開幕3カ月前に球団を設立したものの他球団はプロ、アマから豪華な補強で50名以上の選手を集めたが、初代石本秀一監督は政界財界等々を奔走し何とかリーグ開幕にこぎつけたが、大半の選手は新人でプロ経験はごく僅かだった。メンバーの中には福山地区から福山誠之館中、福山東高(誠之館)、盈進商高、尾道地区から尾道北高、尾道商高出身の選手、広島地区から広島中(国泰寺)、広島商高の出身者が多数見受けられる。初年度のセリーグ8球団中のカープの成績は最下位、勝率は3割にも届かない有様。優勝は資金量豊かな松竹ロビンスであった。

広島カープの由来は、広島城(鯉城)より命名

したがここで珍事が発生した。「Carp」は本来「単数複数同形」であるが「カープス」と命名した。球団側は「集団」であるから複数形が良い、他球団は全て「S」を付けていると主張した。が文法上の誤りを指摘されカープとした。途中変更したもののユニホーム等は制作済み、開幕式にはユニホーム、プラカード共に「広島カープス」とあり開幕式が行われた平和台球場(福岡)にも見られる。前記の様にカープは親会社を持たない市民球団のため資金に事欠き、選手の契約金や報酬もままならず、合宿所の運営も困難となり知人旅館に間借りした。ホームグラウンドを持たないため旅費の捻出も不足で地方転戦の時は当時3等車で通路に新聞紙を敷いて就寝している。結局シーズン終了後球団消滅が決定したが、石本監督は何としても市民球団を残したいと熱望し再三政界財界等にお願ひ奔走。一般市民に呼びかけた「たる募金」は当時話題となった。

翌シーズンを迎えた。開幕選手メンバーは29名初年度の報酬も満足に払えないため再契約出来なかった。昭和28年、8球団が一部消滅したり合併し6球団となり、昭和32年に広島市民球場が完成し、入場者の増加で以後黒字経営となった。

カープ優勝決定後の談話として、広島東洋カープ松田オーナーは「カープ流経営学」の中でカープが初優勝した昭和50年から今日まで41年間黒字経営を続け「堅実経営」と評価されるが、実は黒字でなければならぬ理由がある。親会社を持たない唯一の市民球団だからだ。又カープを支えた経営者の中には広島銀行会長兼商工会議所会頭、宇田 誠氏(28年卒)の名前がある。氏はマツダ新球場の建設の拠出について会頭として県内企業800社の協力を要請し完成に貢献された。

おわりに我が家のカープ女子は昭和30年代広島の子供で寄宿生活を送っていたので、宇品から紙屋町の球場まで寮の友達と度々応援に出かけた由。ナイター観戦の時は時々門限に遅れ舎監よりお目玉を受けた元祖カープ女子である。今夏マツダ球場へマツダ車で2000キロを走破、対中日3連勝をカープ応援グッズで参上した。「カープロード」「鯉城通り」を闊歩し熱い体験であった。前半の成績から今年のカープは2連覇更に日本一を目標に熱戦を繰り広げる昨今である。

それ行けカープ!!

今年絶対日本一じゃ!



元祖カープ女子の奥様と観戦。2017年7月1日(MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島)

福山の学生の 東京での拠点となる

文京区西片にある「誠之舎」。福山にゆかりのある120年以上続く学生寮を舎生だった植村崇由さん（平成14年卒）が訪ね、占部啓介舎監にお話を伺いました。

公益財団法人 誠之舎
〒113-0024 東京都文京区西片1-7-15
TEL.03-3814-8978



平成27年度耐震補強工事と補修を行った誠之舎外観



占部啓介 舎監

植村 誠之舎は旧福山藩主、阿部家の育英事業として明治23年に旧福山藩内から上京勉学する男子学生の寄宿舎として設立。一時期武蔵野市中町に移転し昭和45年に現在の地に戻り、平成24年には公益財団法人の認定を受ける。「誠之舎」の名前から誠之館の学生の施設のように思われがちだが、旧福山藩、現在のいわゆる備後圏からの学生さんであれば入舎することが出来る。実際「誠之舎」で東京での学生生活を送った葦陽卒の先輩方もおられました。

植村 学生さんはどこから来られていますか？

占部 現在ほとんどはいわゆる備後圏、ほぼ旧福山藩内、中には広島市からの学生さんもあります。昨年は「誠之舎」の存在を知ってもらったため、福山のほとんどの高校に説明に行きました。

植村 最近では東京に進学する葦陽卒の学生が少なくなりました。

占部 今は葦陽の方はいませんが、過去には葦陽卒の先輩方も多くいらっしゃいました。戦後の学制改革で葦陽高校になったのですが、県女の女性は勿論ここには入れませんけれど、昔は、この誠之舎の地にあった蕉雨館や近くにあった葦陽倶楽部で同窓会を開かれていたようなお話もお聞きしました。

植村 県女の方は今もお元気に同窓会にも来られて、東京に居ても福山のゆかりの場所で交友を深められたのでしょうか。ご主人が誠之館卒で奥様が県女、葦陽というご夫婦が多いですから。私はたまたま誠之舎を知っていて1年間ですがお世話になりましたが、知らない方が多いと思いますね。

占部 広報活動をもっと頑張らなと（笑）、高校の先生方はご存知と思うのですが、ホームページも新しく作り直していますし、フェイスブックももっと

活用して、学生を巻き込んで、情報を発信し、しっかりと広報活動をしていきたいと思っています。

植村 あちこちの地域の活動に積極的に参加されていますよね。私がいた頃はそれはなかったのでは羨ましいです。

占部 福山市、文京区、西片町などには地域の友達と綿密に連絡をとり交流していかないと、寄附も含めてやはりお世話になっている所ですから。

植村 親御さんも息子が東京でどうしているのか心配でしょうから、みんなで協力して地域への貢献や交流しているのはすごく安心されるでしょう。新入生歓迎会や親睦会など仲間との絆や連帯感、思いやり、そして社会人としてのルールを学べるよい場所だと思います。

占部 最初にオリエンテーションで、ここはただの集合住宅ではないこと、OBの方々の支えがあることを理解した上で入舎してもらいます。あと、福山市や商工会議所さんとも連携して、「福山知つる検定」をここでやったり、今後、さらに地元企業さんとも繋がって、何かやりたいなと思っています。

植村 そういってお考えを持たれている舎監さんはすごいと思います。

占部 私と同時代に、誠之舎に居た人達が今、理事として運営に携わり、色々と新しいことを考えています。昔私が舎生だったころはテレビは禁止、二人部屋で厳しくて、今は随分自由になりました。

植村 私らの頃は冷房がなく、開けた広げだったから先輩と交流が出来てよかったんですけど。

占部 今は学生寮としての機能しかないじゃないですか、今後は寮生だけでなく、備後圏からの学生の東京の拠点みたいな場所になればいいなと思っています。現在の施設を見直して、例えば葦陽高校の東京同窓会の拠点としていただき、会議や打合



誠之舎のある西片の祭りに参加して神輿を担いだり、こども達と交流しています



誠之舎から続く坂は新坂(別名 福山坂)



学生居室 約7畳ほど。エアコン、TV配線、インターネット配線完備



キッチン

風呂場

せがでるような場として提供するか。そして、こうした活動を通して、広島県、特に備後圏の高校の育英事業の東京での拠点として利用できる誠之舎になれば良いと思います。そして、もちろん誠之舎OB、特に在京のOBのための誠之舎としてもインフラ整備を頑張りたいと思います。

植村 学生さんがここに来てくれることはうれしいですが、私達もここに来るチャンスが出来る、まさに第二の福山が出来るようなものですね。

占部 で、大事なことを忘れていました。学生寮としての誠之舎を簡単に紹介しておきます。37人定員で全個室です。舎費は一月約75,000円で生活できます（注：文制の朝・夕食を全て含む）。安全で交通至便の地にあり、毎年10月頃に次年度の募集を開始します。詳しくはホームページに応募要項を掲載しますので、ご覧下さい。

ぜひ！葦陽の学生さん、お待ちしております。

福山市は、



福山市長
枝広直幹
(えだひろ・なおき)

福山葦陽東京同窓会の皆さまこんにちは。昨年9月から第13代福山市長として市政を担わせていただいております枝広直幹でございます。

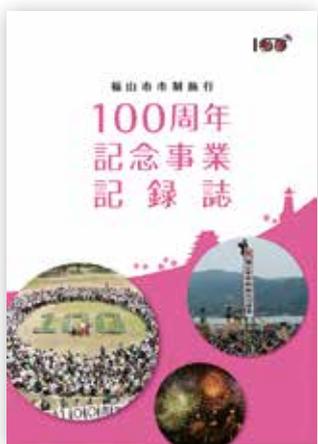
昨年、皆さまの母校であります福山葦陽高等学校は創立110周年を迎えられました。誠にめでたうございます。心からお喜びを申し上げます。

福山市も昨年市制施行100周年を迎え、市民の皆さまとともに新たな未来への歩みをはじめました。今、私は市民の皆さまや“ふるさと福山”を想う皆さまが胸を張って誇れるまちを実現すべく、全力で市政運営に取り組んでいるところであります。

皆さまにおかれましては、“ふるさと福山”への変わらないご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げますとともに、貴同窓会のますますのご発展を祈念申し上げ、誠に簡単ではありますが私のごあいさつとさせていただきます。

100周年記念事業記録

福山市は、100周年記念事業の記録として、『福山市市制施行100周年記念事業記録誌』『福の山百選』を制作しました。いずれも冊子としての発行はしていないので、福山市のHPよりダウンロードしてご覧ください。



『福山市市制施行100周年記念事業記録誌』
記念式典や市民提案型イベントを始め、協賛事業も含めて400を超える事業を写真とともに取りまとめた記念誌を制作しました。



『福の山百選』 福山の魅力を再発見し広く市内外に発信するため、「次の100年に伝えたい、残したい福山の誇り」を「祭」「観」「食」「宝」「品」「他」の6つの部門ごとに市民投票により選定。



ぶくやま・ひろしま・とっきょう情報



50回開催 福山ばら祭(5月20日、21日)

福山ばら祭は本年、記念すべき50回目を迎えました。福山市は戦時中、空襲で市街地の多くを失いました。戦後、荒廃した街に潤いを与え、人々の心に安らぎを取り戻そうと、公園にばらが植えられました。1950年代(昭和30年代)に始まったばらのまちづくりは、平和への願いとともに、今日まで営々と受け継がれています。

福山市史 最終巻ついに完成(全8巻)

市制施行85周年を記念してスタートした福山市史編さん事業は、「福山市史 原始から現代まで」をもって全8巻の刊行を終えました。福山の歴史を知る上で大変貴重な資料です。

B5判 380ページ 価格2,500円(第8巻)

販売場所は、福山市生涯学習プラザ(まなびの館ローズコム)3階 歴史資料室、福山市役所本庁舎3階情報管理課

お問い合わせは、歴史資料室 TEL084-932-7264

※書店販売はありません。



◀第8巻(最終巻)
「福山市史 原始から現代まで」

写真、資料提供：福山市

10号に **カンパを頂いた方々です。**

全国から多くの暖かいカンパと励ましを頂戴し、そして原稿をお寄せ下さいました皆様のお陰で、昨年10号を発行することができました。誌面をお借りしまして厚く御礼申し上げます、ありがとうございました。

福山葦陽東京同窓会会長
来山 征士

恩師/舟田光義(鎌倉市)、今岡陸敏(福山市)、宮和子(福山市)、川崎雅俊(福山市)/福山葦陽同窓会本部/本部総会時有志/大島泰子(福山市 喜多流大島能楽堂)、S14/菅 純子、S16/河毛俊子、S17/日村品子、S19/佐藤嘉子、S20/角田昌子、S21・22/山田卓月、井口友子、豊沢朝子、藤井貞美(福山市)、森 成子(大阪府豊中市)、鳥越公香(岡山県小田郡)、S23/国保貴世、北中三重子、辻 礼子、S24/石山勝子、藤井拓三、永島靖子、近藤正子(福山市)、S25/藤永政江、原田玲子、占部健夫、池口義人(福山市 誠之館25同期会)、入江英代(福山市)、浅野美耶(竹原市)、S26/安部隆子、徳永 巖、鈴木房枝、S27/横田冷子、S28/片岡禮子、長島志津子、中島信義、来山和義、永島直子、遠藤信子(京都府八幡市)、S29/多田正志、小丸順子(福山市)、S30/小田富子、柳井淑彦、S31/前原一夫、占部勲司、岩瀬健祐、岡崎信之助(茨城県北相馬郡)、S32/石井義信、福田桂子、増田和子、柳田幸恵、宇田成徳(大阪市)、近本節子(福山市)、S33/小川敏彦、西原伸子、藤井栄治、S34/蓮石 勉、開原 剛、佐藤凡雄、S35/前原美智子、宮 真寿恵(福山市)、村上 光(福山市) 山本良三、田治正光、真田和恵(福山市)、吉川由紀子、佐野禎信(北九州市)、若林容子、伊地範子、細川ハテミ、S36/桑原尚子(京都府宇治市)、川端美枝子、加藤公恵、井上哲也、東 早苗、日和正美、松田恵子、来山征士、向井総昭、曾我登喜、S37/岩瀬浩造、齊藤節子、佐々木康之(福山市)、垣原洋昭、遠藤宏子、S38/佐久間 定、升川澄子、三吉伸子、高橋利暢(福山市)、藤井順子(福山市)、長里順美(島根県飯石群)、S39/中島美代子、佐藤綾子、菅波孝人、S40/林 千鶴(福山市)、村上芳則、吉田道子、田丸佐知子、児玉弘子、坂本智和、神原郁子、鳥志のぶ、山本和子(福山市)、小林深雪(福山市)、井上恵子(福山市)、S41/吉岡清八郎、古川宏江(福山市)、S42/富澤真澄、黒田真理子、由井由美子、S43/岡本利男(福山市)、中山紀代子、S44/廣川照樹、S45/佐藤 巧(福山市)、一安京子(福山市)、茶谷耕司クラブ一部有志山崎・藤本・桑田・茶谷(福山市)、津田伸子、小池秀子、細谷永子、池田由紀子、S46/香妻悦子、S47/福島育枝、水澤加代子、世良真理子(福山市)、杉原郁子、S48/相原謙一、S49/彦田幸男、S50/勝岡宏行(福山市)、成沢勝行、S52/神原豊司(福山市)、S55/吉岡嘉尚、H14/植村崇由(卒業年順、敬称略 2017年8月5日現在)
※その他多くの方からご支援いただきました。心より感謝申し上げます。

「あしび」編集室 及び 東京同窓会事務局

東京同窓会に関すること、「あしび」に関することはこちらにご連絡下さい。

〒180-0006
東京都武蔵野市中町1-34-3-403
(有ビッグバン内 あしび編集室)

TEL 070-6965-3702

〈東京同窓会事務局・あしび専用 寄国 聡〉

FAX 0422-52-1596

e-mail: syorikuni@gmail.com

企画テーマ、投稿も募集します!

『あしび』に掲載する記事や取り上げて欲しいテーマなどございましたらいつでもご連絡下さい。

**住所等の変更は本部HPから
できるようになりました。**

福山葦陽同窓会

検索

※総会案内、「あしび」希望の方は必ずお知らせ下さい。



● **杉原杏璃さん おかえりなさい!**

グラビアアイドルとして活躍する平成13年卒の杉原杏璃さんがグラビア界の裏側などを描いた自伝的小説「...and LOVE」を出版の後、自身の主演により映画化を実現。映画の上演に先立ち3月11日、福山市の映画館で舞台挨拶が行われました。会場には同級生や知り合いが大勢押し寄せ久しぶりの再会を楽しみました。6月の本部の総会にも出席され楽しいトークショーも行われました。



空間 spazio 厚紙に墨 2016 29.0×33.8cm

前列左が開原さん、隣は奥さま

● **開原通人作品展 (国立 3/23-28)**

福山在住の36年卒、開原通人さんが国立の「ギャラリー国立」で個展を開催。青春時代を武蔵野で過ごされて、再び縁のある国立で近作を発表されました。会場には同期も多数駆けつけて久しぶりの旧交を温めました。



● **今井絵美子さんの新刊『ぶぶ漬屋 稲茶にございます』**

闘病中も精力的に執筆されている今井絵美子さん(福山市 39年卒)の待望の新シリーズ「ぶぶ漬屋稲茶」の第一弾「稲茶にございます」がハルキ文庫より刊行されました。



● **『イマ中画廊の仲間たち』(福山 ギャラリー風の巣 7/7-31)**

葦陽高校の南、三之丸に福山で唯一、文化の殿堂として35年続いた、イマ中画廊が幕を閉じ10年になります。若き日の作家、美術愛好家の芸術の檜舞台で、私も若き血汗をたぎらせました。このたび『イマ中画廊の仲間たち』で輝いていた懐かしき時代、胸がときめいたあの頃のひとときを、もう一度味わって見ませんか?! そんな新たな出会いと、挑戦への第一歩です。



杉原昇司(放斎)(福山市 44年卒)



● **福山市『東村町かかし祭り』**

知ってました?

福山大学のある東村町に1946年から続く伝統の祭り。秋の収穫に感謝し、農作業の苦労を「かかし」に託してねぎらうユーモラスな祭り。沿道では約200体が来場者を迎えてくれます。毎年12月の第1日曜日に行われています。



祭りのシンボル「ひがし大ちゃん」



一昨年の第70回「東村町かかし祭り」



● **『経済レポート』に掲載されました**

備後圏域を商圏とする経済情報誌『経済レポート』にあしび編集室(2016.11月)と、53年卒大成修司さん(2017.5月)の記事が掲載されました。経済問題だけでなく、幅広い情報を月3回発行され、「10日間に10万人が読む雑誌」として、42年卒の西原 洋社長のもと、精力的な取材内容は多くの方から信頼され、長年愛読されています。地元福山の情報を知るには「経済レポートWEB版」「Facebook」にアクセスして最新のニュースを是非ご覧下さい。
www.keizai.info

おっ、好み焼き

soul food
我らの そうる・ふうど

福山にいたときも、遠く離れていてもずっと記憶に残る味、「好み焼き」。広島風、関西風、現代風…作り方食べ方はいろいろあれど、お店を見つるとつい立ち寄ってみたいくなるそんなそうる・ふうどを紹介します。

●お店の場所は探して訪ねてみましょう!

福山

みちぐさ

福山にはいつの頃からか、あちこちに「好み焼き」のお店がありました。まさに福山人のソウルフードと言うべきなのでしょう。卒業生の中でもこのお店に足を運んだ人は多いでしょう、先生と一緒に食べたこともあったような無いような? いまも元気で営業中。



そば入りで、ボリュームアップも!(500円。とにかく値段にビックリ)



今もお元気なお母さん



この値段にはビックリ

お城の下にあった母校の西側に今でもしっかりと「好み焼」の暖簾が。優しい笑顔のお母さんが、料理酒を振り、ひと手間掛けた牛肉と卵入りのお好み焼きが何と400円! 腹ペコの高校時代にお世話になった若者も多いはず。今もボリュームたっぷりの懐かしい味ですよ。帰省の際には一度足を運び、当時の話をしながら食べると、懐かしい青春がよみがえることでしょう。

銀座

こいこい 鯉々

銀座へ行ったら、銀ブラと「TAU」と「好み焼き」。「TAU」の2階にある好み焼き「鯉々(こいこい)」新しくリニューアルしたお店は以前とはまた違う味を楽しめます。銀座で「好み焼き」なんて? 広島県人、福山人だからこそわかる味わいを是非一度ご堪能下さい。



青山

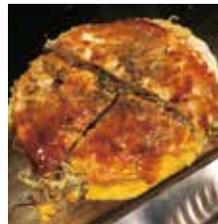
かんの 海音

青山の根津美術館から根津坂を下ったところにある「鉄板焼き・話食 海音(かんの)」は表参道、青山の喧噪から抜け出したようなお店。マスターのお父様は華陽高校千葉清土元校長(昭和53年~55年)。東京で華陽高校を語る場所は唯一かも、是非一度お立ち寄り下さい。

浅草

ほん 凡

浅草寺の脇、地方の魅力が体験できる商業施設「まるごとっぽん」の3Fには備後圏域の物産を紹介するコーナーと、4Fには「ひろしま・好み焼凡」があります。浅草廻りをブラリして広島ならではの美味しい一品料理や地酒と一緒に「ひろしま・好み焼」で楽しい時をお過ごし下さい。



鞆の浦の弁天島。夜の花火大会の会場です

【表紙の写真】 福山鞆の浦弁天島花火大会

瀬戸内に初夏を告げる風物詩。舞台は、弁才天を祀る弁天堂(福寿堂)が建っていることから弁天島と呼ばれているこの小さな島。その弁天島から、約2000発もの花火が夜空に打ち上げられました。対岸には夜店が軒を連ね、明るい売り子さんの声が右に左に飛び交います。大勢の人が集まる活気に満ちた一夜。瀬戸内に本格的な夏の訪れを予感させる、鞆の浦自慢のお祭りです。今年は5月27日(土)でした。

tokyo Ashibi 11

平成29年8月31日発行(年1回)

発行人/ 来山征士(S.36)

編集担当/ 岩瀬浩造(S.37)、田丸佐知子(S.40)

制作担当/ 寄國 聡(S.45)

編集/ 福山華陽東京同窓会役員会・幹事会

編集協力/ 福山華陽東京同窓会会員、福山華陽同窓会本部、福山華陽高等学校、福山市東京事務所 他

編集後記

息切れではありませんが、今号より16頁の内容になりました。今まで通りの構成で多くの方々より原稿や情報をお寄せいただきました。ありがとうございました。裏話や秘話をご紹介できて、改めて歴史と伝統を感じながら編集、制作をいたしました。まだまだ頑張る「あしび」にご期待下さい。